

「すばるの国際運用」

高田：PFS SSP でお金を払ったからフルアクセスはまずい。向こうからも時間を出すなどで win-win にすべき。

児玉：サーベイ化が進むのはパートナーにとって魅力では？ SSP などのアクセスは重要な売り物になる。

柏川：その通り。バランスをちゃんと考えて進めたい。

家：すばるの今後を考えると新しいパートナーは重要。いまの UH 時間 (15%) の契約は失敗だった。不平等な契約だったと反省している。今後見直しを考えるべき。パートナーシップは慎重に考えるべき。場合によっては弁護士を立てる必要もある。TMT ではそうしている。

山田亨：EAO とのパートナーシップについてはまだ何も決まっておらず中身が無いことを危惧している。具体的に何を目的としたパートナーシップなのか？ 17AB で既に 6 晩を与えているが、その対価として 150K USD の根拠は？

大橋：EAO が入るメリットについて。装置開発は期待できない。主な期待はキャッシュ。

山田亨：キャッシュについて EAO 側の見通しはあるのか？

大橋：各国が予算申請をする可能性はなくはない。JCMT をやめれば 2.2 億はでる？

NAOJ から EAO にお金を出し、それをすばるに使うのもあり得る。

山田亨：増えるのはほかの国の分だけでは。総計では？

大橋：2 億円ぐらい？

安田：パートナーが装置開発に入るというが、Ultimate も装置の collaboration にしないと不公平では。すばるが本当にほしいのは運用費なので、それはそれとして集めなければ。

岩田：装置 collaboration の人たちが不当だと感じないような方策を考えねば。

高遠：安田さんとおなじ不安を感じる。CHARIS でも問題になった。最初にへんなことにならないようにせねば。観測所でも集中して議論すべき。

吉田道：in-kind というのをちゃんと定義して、条件をすべのパートナーで同じにせねばならない。その意味ではお金は分かりやすいが、in-kind もよく考えておくように。

岩田：最初のオーストラリアの例が適用される。最初の枠組みは来年 1 月までに決めることになる。議論の時間はあまりない。

本原：プロポーザル採択数を出資額に比例させないのはあとあと問題を起こす

懸念がある。割り切って時間を割り振ったほうがよいのでは。

岩田：観測所側の提案はミニマムを定義すること。オーストラリアはそれでよい
とは言っている。

高遠：お金で割ると日本は半分ぐらいは失ってしまう。競争的にして水増しされた
ような見かけになっている。

大橋：EAOなどもサーベイへのアクセスが重要だと考えている。

本原：入口が大切なのでかちとした方針を決めるべき

高田昌：operation cost だけでなく建設・装置費をちゃんと議論して不利に
ならないようにしてほしい。

家：operation cost だけで考えることはありえない。したたかに交渉するのが
必要。

大内：サーベイなどは具体的にはどのようなことを考えているのか？

岩田：オーストラリアはPFSに興味。オーストラリア時間などをつかってPFSに
コントリビューションすることを検討している。

大内：そうなる観測所だけでは決められない。クリアな定義をまず決めて、
当事者でさらによい案をケースバイケースで考えるのもありでは。

本原：お金で割ると半分ぐらいになるなら、それをちゃんと言うべき。

高田昌：サーベイの話はIPMUとすばるでは進めている。

大内：パートナーなど要素がたくさんあって、最適解を求めるのはマンパワー
的に観測所だけでは難しいのでは。お金でちゃんと価値を定義し、
ユーザーベースで最適化するのはいかがでしょうか？

岩田：最適化はユーザーベースでは難しいと思う。観測所が責任をもって
進めるべきと考える。

土居：まずは相手の実力を見て、そのあとすすめるという2段階で進めるほうが
よい。

岩田：文科省はお金が入るのならよいとおもわれる。観測所としては時間確保
の観点から切り売りではなくパートナーのほうが良いと思っている。

価値だてをお金でやるのはパートナーベースでもできる。

今はパートナーベースで進んでいるので、切り売りの方針にするなら
今決めねば。

高田昌：長期運用を考えるにはパートナーのほうがよい？

岩田：切り売りでも数年にわたる契約でできる。

佐藤文：続きは総合討論で。